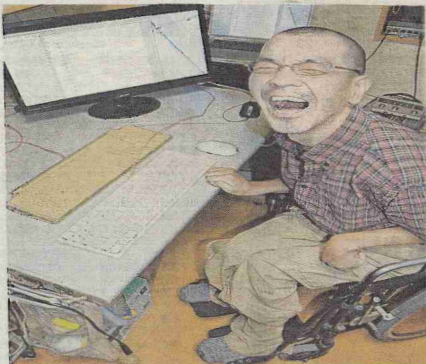


「自己紹介の唄」

小さい頃から 自分の名前を
人前で言うのが 苦手だった
僕の出番がきたら いつも
泣いてる僕だった
とてもそれがいやで 何とかしようと
思っている、プレッシャーがかかるばかり
言おうと 言おうとしても
言葉はつまっていきばかり
緊張が高まるたび 何故か
名前だけが 心にしまってしまう
自分でも分かっている でも
自然に涙がでてる
だから この唄を唄いたい
僕の名前は URANO TSUYOSHI
たった一言が いつも言えない

自宅でパソコンを使って曲作りをする
浦野健さん＝大阪府高槻市



高槻 脳性まひの男性

音楽は僕の「言葉」そのもの。言葉をうまく発する
ことのできない脳性まひの男性が作詞・作曲とバンド
活動をしている。人前に出るのが苦手だった少年時
代、メロディー声で気持ちをは伝えられると知った。今
年、バンド結成20年を迎え、11月に記念ライブを開く。

音楽なら響く心の声

バンド結成20年 手がけた200曲



車いすに乗ってライブで熱唱する浦野
健さん＝大阪府高槻市、浦野さん提供

大阪府高槻市の浦野健さん(42)。仮死状態生まれ、脳性まひの後遺症が残った。「健やかに過(すご)せるよ!」。亡くなった祖父が祈る思いでを付けた。車いす生活で、母晴美さん(68)が介護する。

小学校に入り、同級生と同じように振る舞えず、スムーズに会話できない自分もどかしかった。

2年生の時、担任の先生と毎日交換日記をした。ともだちとあそんだ。日記がちょっとうれしかったこと、平仮名のタイプライターを使い、右手の書きし指、中指、薬指で「文字」文字、1時間近くかけて打った。家族以外の人も思いは伝わる。同級生とも距離が縮まり、車いすを押しもついで一緒に登下校するようになった。

中学生の頃、長瀬剛さんのフアンに。「全力投球で歌う姿がかっこよかったからだ。」「とんぼ」「戦杯」「巡遊歌」。代目選だ。

浦野さんとのツイボーカルを担当する介護ヘルパーの神頭美由希さん(45)は「気持ちよくもった曲ばかり。」「歌詞と曲作をしてくれた健君の歌声を、多くの人に聴いてほしい」。

バンド結成20周年記念ライブは11月4日、高槻市高槻町の「URRGE TAKATSUKI」で開かれ、記念CDも配られる。問い合わせは浦野さん宅に「ファクス(072・672・4600)」。 (窪美奈樹)

大阪府高槻市の浦野健さん(42)。仮死状態生まれ、脳性まひの後遺症が残った。「健やかに過(すご)せるよ!」。亡くなった祖父が祈る思いでを付けた。車いす生活で、母晴美さん(68)が介護する。

小学校に入り、同級生と同じように振る舞えず、スムーズに会話できない自分もどかしかった。

2年生の時、担任の先生と毎日交換日記をした。ともだちとあそんだ。日記がちょっとうれしかったこと、平仮名のタイプライターを使い、右手の書きし指、中指、薬指で「文字」文字、1時間近くかけて打った。家族以外の人も思いは伝わる。同級生とも距離が縮まり、車いすを押しもついで一緒に登下校するようになった。

中学生の頃、長瀬剛さんのフアンに。「全力投球で歌う姿がかっこよかったからだ。」「とんぼ」「戦杯」「巡遊歌」。代目選だ。

浦野さんはボーカルを担当。大阪、京都の歌手やアマチュアのミュージシャンが随時メンバーに入り、小学校に招かれて演奏するほか、年々ほぼライブを重ねてきた。1回きりのバンドのつもりだったが、20年も続けた。周囲のおかげで、これまでロック、バラッドなど約200曲を作曲。地元の高槻まつりのテーマ曲も作り、2009年から「ツイボーカル」が誕生。22歳の時だった。

奏作の歌詞は何度もタイプで打ち、かみしめた。

中学卒業後、音楽教室に通い、パソコンでの作曲方法を学んだ。16歳の初めて作詞・作曲したのが「自己紹介の唄」。人前では名前さえ言えない自分への怒り、悲しみを込めた。教室の発表会で、緊張しながら、たどたどしく歌うと大拍手を浴びた。「認められ気がした」。

地元の和太鼓奏者に曲を提供したのをきっかけに、浦野さんをリーダーとする「URANO BAND」が誕生。22歳の時だった。

2017年(平成29年)
9月16日
土曜日

夕刊
関西発

金融情報4面
スポーツ5面
TVラジオ3.5.8面

朝日新聞大阪本社
〒530-8211 大阪市北区中之島 2-3-18
電話 06-6231-0131 www.asahi.com

朝日新聞

音楽は僕の言葉…バンド作り20年 7面